

今輝く時 

お父さんのための
審判かんたんマニュアル



穂中学校野球部 保護者会

審判の心得

1. 常にボールから目を離さない

インプレイ中は、何が起こるか分かりません。気を抜いた時ほど、際どいプレイに遭遇するものです。また、怪我の原因にもなりますので、常にプレイに集中しておきましょう。

2. 選手の邪魔にならず、プレイが見やすいポジショニングを

正確で公平な判定のために、状況に応じた的確なポジショニングを、選手の邪魔にならないことを意識して行いましょう。また、2塁塁審時にダイヤモンド内に位置する場合等、急な移動に対応出来ないため、座るのはやめましょう。

3. ジャッジを行う際は、立ち止まり、慌てず、急がず、落ち付いて

走りながらのジャッジ、『休め』の体勢では正確なジャッジが出来ませんので、ジャッジの際は必ず、立ち止まって冷静に行いましょう。また、『セーフ』のジャッジはプレイの確認直後に、『アウト』のジャッジの場合は落球の可能性がありますので、ひと呼吸おいて慌てずにコールしましょう。

4. きわどいプレイのジェスチャー、コールは一際大きく

きわどいプレイとは、双方が自分に有利に見えてしまうものです。きわどいプレイには、恥ずかしがらず、大きな声と大きなジェスチャーでジャッジしましょう。また、自信が無くても、自信を持って、勇敢に堂々とジャッジしましょう。

5. ミスを自覚しても、以降のジャッジは正確且つ公平に

ストライクやボールの判定、フェアやファウルボールの判定、アウトやセーフの判定等、ジャッジの失敗した後、そのミスジャッジの穴埋めとして『帳尻合わせ』をするのはやめましょう。

6. 試合中は審判員に徹する

練習試合であっても、技術的な助言や指導は控え、試合後に行うように努めましょう。

7. 二日酔いや体調不良時の担当は控える

正確且つ公平なジャッジのため、二日酔いや体調が悪い時は、他のお父さんに代わってもらいましょう。また、気温の高い日などは、『寝不足』や『二日酔い』が熱中症の危険度を高めます。安全、事故防止のためにも無理はしないようにしましょう。



ジェスチャーとコール

1. 『アウト』と『セーフ』

タッチプレイにおいて、守備側の選手がタッチをしていない時は、『何も起きていない』という観点から、セーフのジェスチャーならびにコールはいずれも不要です。また、誰が見ても明らかなジャッジの場合は、ジェスチャーだけでコールは小さくても構いません。

2. 『スイング』と『ノー・スイング』

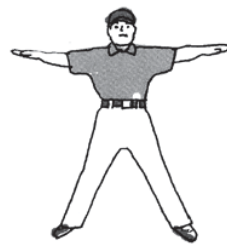
右打者の場合の1塁塁審、左打者の場合の3塁塁審は、ハーフ・スイングの判断を球審からの指名により委ねられる場合があります。スイングの判断は、手首が回ったか？否かによりますが、スイングと判断した場合のジェスチャーは『アウト』と同じで、コールする場合は『スイング』とし、スイングしていないと判断した場合は、『ノー・スイング』とコールし、『セーフ』と同じジェスチャーをします。

3. 『キャッチ』と『ノー・キャッチ』

ライナーやフライなど、ノー・バウンドで捕球したか？否かが微妙な場合、フライ又はライナーをノー・バウンドで捕球したと判断した場合は『キャッチ』とコールし、『アウト』と同じジェスチャーをします。また、ノー・バウンドで捕球出来なかったと判断した場合は、『ノー・キャッチ』とコールし、『セーフ』と同じジェスチャーをします。特に『ノー・キャッチ』のジェスチャーは、走者がいる場合は重要になります。



「スイング」／「キャッチ」
(アウトと同じ)



「ノー・スイング」／「ノー・キャッチ」
(セーフと同じ)

4. 『ファウル・ボール』と『フェア』

ファウル・ボールのジェスチャーならびにコールは、常識的なので説明は割愛しますが、『ファウル・ボール』をジャッジした審判員に呼応して、他の審判員も全員『ファウル・ボール』のジェスチャーとコールを行います。これは、打球を見ること無くプレイ続行している選手にも知らせるために大切です。

また、『フェア』の場合は、フェア・ゾーン側に腕を伸ばし、フェア・ゾーンを指さしてジェスチャーをしますが、コールはしません。これは『ファウル・ボール』と『フェア』の違いを明確にするためです。



「ファウル（・ボール）」



「フェア（ノー・ボイス）」

5. 『タイム』と『プレイ』

審判の判断で『タイム』をかける場合は、『ファウル』と同じジェスチャーで『タイム』と大きな声でコールします。その際、他の審判員も呼応してジェスチャーとコールを行います。

また、攻守交代時、タイム、ファウル・ボール、デッドボール、故意落球、打者空振り後に投球が打者の身体に当たった場合などは『ボール・デッド』となり、プレイ中断状態になります。これら中断後にプレイを再開する際は、ゲーム開始時同様に球審がジェスチャーと同時にコールすることでプレイ再開となります。また、フォアボールや三振振り逃げ、インフィールド・フライは、ボール・デッドとはならず、インプレイ中ですので、絶対に気を抜かないように気をつけましょう。



6. 『インフィールド・フライ』

『インフィールド・フライ』は審判員のうち、誰が宣告しても構いません。該当事象が発生し、簡単に捕球可能と判断したら、フライが上がっている最中に、上空の打球を指さし

アウトとなりますので、『バッター・アウト』とコールし、ジェスチャーをして判定が分かるようにします。但し、これは審判員が宣告して初めて適用されますので、どの審判員からも宣告がない場合は適用されず、『成り行き』になりますので、気をつけましょう。



7. 『ボーク』について

投手のボーク（不正投球）があった場合は、球審の場合は『ボーク』とコールのみ行います。塁審の場合は、投手を指さずジェスチャーをして『ボーク』とコールします。走者がいる場合は、それぞれ1つの安全進塁権を与えますが、走者なしの場合は打者に対してボールカウント1つが与えられます。しかし、我々保護者が審判員を担当するのは主に練習試合です。最初から厳しくボークを取り、選手を萎縮させるよりも、指導・注意をして選手の育成を念頭においたジャッジを心がけましょう。何度も繰り返すようなら『ボーク』を適用するようにしましょう。

